

令和4年度なら食と農の魅力創造国際大学校評価シート

令和5年3月31日

1 学校教育方針

なら食と農の魅力創造国際大学校では、これまでにない実学教育で、生産・調理・加工・流通などを担う次世代の「食」と「農」のトップランナーの育成を目指す。

(1)フードクリエイティブ学科

農業・農作物に関する知識を持った「食の担い手」の育成を目指す。

(2)アグリマネジメント学科

高度な農業技術があり農業経営センスの優れた「農の担い手」の育成を目指す。

2 本年度に取り組む重点目標

(1)情報発信等による入学生の募集活動

(2)学生教育の充実

(3)開業・就農・就職支援の強化

(4)県内従事者への支援

3 評価項目と取組み状況

重点目標:(1)情報発信等による入学生の募集活動

達成度の基準	
A 十分達成できている	100%以上
B 概ね達成できている	80%以上～100%未満
C やや不十分である	60%以上～80%未満
D 不十分である	60%未満

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の御意見
両学科共通	<p>&lt;現状&gt; 近年の入学生数はフードクリエイティブ学科では、令和3年度が20名、令和4年度が12名、令和5年度入学予定者が19名である。アグリマネジメント学科においては、定員を上回る出願者を確保しているが、専業農家の後継者の入学率が15%と低い状況。</p> <p>&lt;課題&gt; 本校の強みである実践的な教育内容、卒業後の進路等を積極的にPRし、学校の認知度向上と学生募集を強化していくことで、フードクリエイティブ学科の学生を確保していく必要がある。また、アグリマネジメント学科では、安定した出願者を確保できているが、専業農家の後継者の入学者を確保する必要がある。</p>	広報活動	<p>○関係機関との連携やその他メディアを活用したPR活動 入学試験案内や各イベント等の情報を県広報誌へ掲載する。また、メディアを活用したPRを行う。 【評価指標】 ・県広報誌(県民だより奈良)掲載 10回/年 ・テレビ放送 1回/年</p>	<p>○関係機関との連携やその他メディアを活用したPR活動 入学試験案内や各イベント等の情報を県広報誌等へ掲載した。また、テレビ放映を行った。 【実績】 ・県広報誌(県民だより奈良)掲載 10回(4月号～10月号、12月号～2月号)※オープンキャンパスや入試情報等を掲載 ・大和平野土地改良区だより掲載 1回(4月)※本校イメージイラスト等を掲載 ・奈良テレビ放送「ゆうドキッ！」にて、第7回NAFIC祭当日の取材の様子を放送 1回(11月7日)</p>	A	県民だより奈良は、多くの県民の目に触れるため有効なPRツールになることから、今後も継続して掲載を行う。	
			<p>○パンフレット等の資料を活用したPR活動 学校紹介パンフレット及び学生募集ポスター等を各関係機関へ配布する。また、高校生向けに定期的なDM発送、NAFIC NEWS(第3号)の配布を行う。 【評価指標】 ・令和4年度版学校紹介パンフレット、学生募集ポスター及びオープンキャンパス用チラシの配布 1回/年 ・オープンキャンパス等案内のDM発送 4回/年 ・NAFIC NEWS(第3号)の配布 1回/年</p>	<p>○パンフレット等の資料を活用したPR活動 学校紹介パンフレット及び学生募集ポスター等を各関係機関へ配布し、パンフレットラックの設置を行った。また、高校生向けにDM発送を定期的に行った。 【実績】 ・令和4年度版学校紹介パンフレット、学生募集ポスター及びオープンキャンパス用チラシの配布 1回(6月10日)※配布先は、高校、国、市町村、食・農関係機関及びオープンキャンパス参加者等 ・パンフレットラックの設置 1ヶ所(9月12日)※附属セミナーハウスへ設置 ・オープンキャンパス等のDM発送 4回(5月25日2,100部、6月20日2,000部、7月20日2,000部、10月10日2,000部)※対象は、近畿2府4県、三重県及び鳥取県の高校2、3年生 ・令和4年度版学校紹介パンフレット追加配布 1回(11月2日)※配布先は、県内「道の駅」 ・令和5年度進学案内情報誌への学校情報掲載 1回(1月) ・NAFIC NEWS(第3号)の配布予定 1回(3月下旬)</p>	A	引き続き学校紹介パンフレット等を各関係機関へ配布する。また、5月中にパンフレット等の配布を完了できるように、事務処理のスケジュールについて見直しを行う。	・令和5年度の入学生がどのようにNAFICのことを知り理解したのかを把握する必要がある。
			<p>○SNS等を活用したPR活動 SNSを活用し、PRを充実させる。 【評価指標】 ・YouTube広告 2ヶ月間 ・第7回NAFIC祭当日の様子をPR(※NAFIC祭当日にインフルエンサーを手配) 1回/年</p>	<p>○SNS等を活用したPR活動 転職を希望する社会人向けにYouTubeを活用しPRを行った。 【実績】 ・YouTube広告 2ヶ月間掲載(10月5日～12月4日) ・Instagrm(インフルエンサー公式アカウント)にて、第7回NAFIC祭当日の取材の様子を投稿。(11月4日) ・YouTubeチャンネル「奈良テレビ放送」にて、第7回NAFIC祭当日の取材の様子を投稿。(11月9日)※11月7日「ゆうドキッ！」放送と同内容</p>	A	引き続きSNSを活用したPR活動を行う。	・卒業生の活躍について、PRを強化してはどうか。 ・若い方の入学は「食」と「農」の未来に繋がっていると思うので、児童等も含めて「食」と「農」に興味を持てるような取組を引き続き継続していただきたい。 ・県民だより奈良への掲載が入学生確保に繋がっているとと思うので、引き続き継続していただきたい。
			<p>○公共交通機関におけるPR活動 近郊の主要駅等に学校紹介の看板を設置し、多くの人の目にふれるPRを行う。 【評価指標】 ・近郊の主要駅等に学校紹介看板の設置 6件</p>	<p>○公共交通機関におけるPR活動 近郊の主要駅等6件(近鉄奈良駅構内、大和西大寺駅構内、大和八木駅構内、橿原神宮前駅構内、大阪難波駅構内及び阿部野歩道橋)に看板を設置し、多くの人の目にふれるPRを行った。 【実績】 ・近郊の主要駅等に学校紹介看板の設置 6件(4月1日～3月31日)※近鉄奈良駅及び大和八木駅については、9月30日で終了。 ・JR大阪駅デジタルサイネージ広告 (2月20日～3月26日)</p>	A	どの場所への看板設置が適当なのかを検討し、近郊の主要駅等に看板設置等を行う。	
	<p>○学校案内・学生募集PR活動 以下の7ヶ所で、学校紹介及び入試情報等のPRを行った。 【実績】 ・奈良県立図書館にて学校紹介実施。(5月17日～5月29日) ・イオンモール橿原にて進学相談会実施。(9月23日～9月25日) ・食と農のフェスティバルにて学校紹介ブース出展。(10月8日～10月10日) ・シェフェスタにて学校紹介ブース展示。(10月31～11月6日) ・磯城野高校文化祭にて学校紹介ブース出展。(11月17日) ・奈良県専修学校各種学校連合会の学生向けイベント(奈良しごと未来スクール)にて学校紹介ブース出展。(11月20日) ・第7回UNWTOガストロノミーツーリズム世界フォーラムにて、NAFICをPR。(12月14日～12月15日)</p>	A	引き続き多くの人が集まる施設等でのPR活動を行う。				

重点目標:(1)情報発信等による入学生の募集活動

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の御意見
両学科共通		募集活動	<p>○学校訪問 県内外の高校訪問(進路指導担当教諭宛)を実施し、NAFICの概要や魅力、卒業後の進路等の説明、意見交換を行い本校のPRを行う。 【評価指標】 ・食・農関係の学科・コースがある高校を中心に約50校を訪問。</p> <p>○進路ガイダンスの参加 県内で行われている進路ガイダンス等に参加し、本校に興味のある入学希望者にNAFICの魅力などを説明、意見交換を行う。 【評価指標】 ・県内外ガイダンス 20回/年</p>	<p>○学校訪問 【実績】 ・農業高校等入学実績のある県内高校 33校訪問。 ・調理系の学科がある県外の高校 23校を訪問。</p> <p>○進路ガイダンスの参加 5月～1月までに行われた進路ガイダンスに23回参加し、本校のPRを行った。 【実績】 ・県内外ガイダンス 23回(県内13回、県外10回)</p> <p>※学校訪問及び進路ガイダンス等において、高等教育の修学支援新制度及び附属セミナーハウスについてPRを行った。</p>	A	入学定員を確保できるよう、引き続き学校訪問及び進路ガイダンス等へ参加する。	
			<p>○学校見学会 高校生の夏休み期間中に、NAFICの概要説明と施設見学ができる学校見学会を開催する。 【評価指標】 ・夏休み学校見学会の開催 7日間/夏休み期間</p>	<p>○学校見学会 【実績】 ・夏休み学校見学会開催 ※会場都合により、開催期間が5日間(8月17日～25日の間)に短縮となり、2日間(8月19日:1組、8月21日:1組)の実績となった。 →追加分として、新たに奈良県高等学校等進路指導研究協議会の進路指導担当教諭を対象とした学校見学会を開催し、9校9名の教諭の参加があった。(2月2日)</p>	C	<p>・夏休み見学会については、引き続き実施する。 ・奈良県高等学校等進路指導研究協議会の進路指導担当教諭を対象とした学校見学会について、アンケート調査で開催時期について問題ないとのことであり、次年度も引き続き実施する。また、家庭科教諭の研修会等で本校のPRができないか検討する。</p>	<p>・新たな高校との連携協定を考えてはどうか。</p>
			<p>○オープンキャンパス NAFICのPRを目的に、カリキュラム紹介や実習体験を行うオープンキャンパスを開催する。 【評価指標】 ・オープンキャンパス開催 10回/年 ※オープンキャンパスに参加できない方向けにオンラインオープンキャンパス・学校見学相談会を実施することとしている。</p>	<p>○オープンキャンパス 【実績】 ・オープンキャンパス開催 10回(4月23日、5月15日、6月12日、7月30日、8月28日、10月8日、11月12日、12月18日、1月21日、3月19日) ※参加者延べ61名 ・オンラインオープンキャンパス3回開催/学校見学相談会2回開催 ※参加者延べ5名</p>	A	オープンキャンパスの参加者が受験者につながっているため、多くの参加者が参加しやすい日程で次年度も実施する。また、希望者には附属セミナーハウスの見学を実施する。	<p>・辻調理師専門学校との比較について説明してはどうか。</p> <p>・家庭科教諭へのアプローチを検討してはどうか。(本校の様に調理系の学科を持つ高校は少なく、部活動では料理部等があるため。)</p> <p>・フードクリエイティブ学科においては、奈良県進路指導協議会へのアプローチを検討してはどうか。(教諭に知ってもらうことが大事であるため。)</p>
			<p>○連携協定校との活動 協定締結校の磯城野高校の生徒に対して体験授業を行うなどの取組を行い、本校の魅力を伝える。 【評価指標】 ・体験授業開催 2回/年</p>	<p>○連携協定校との活動 【実績】 ・体験授業 4回(シェフコース:7月28日、1月26日/パティシエコース:8月3日、2月2日) ・出張授業 1回(10月25日) ※対象は、フードデザイン科1年生及び2年生</p>	A	引き続き、1・2年生を対象に体験授業等を実施する。	<p>・担当教諭より体験授業について良い報告を受けているので、引き続き継続していただきたい。</p> <p>・アグリマネジメント学科においては、高校以外に小・中学校との連携を検討してはどうか。</p>
アグリマネジメント学科		募集活動	<p>○オープンキャンパス NAFICのPRを目的に、カリキュラム紹介や実習体験を行うオープンキャンパスを開催する。 【評価指標】 ・オープンキャンパス開催 6回/年</p>	<p>○オープンキャンパス 【実績】 ・オープンキャンパス開催 6回(5月8日、6月25日、8月7日、10月15日、12月17日、3月12日予定) ※参加者延べ140名 ※11月中旬発行の全国農業新聞で12月開催のオープンキャンパス情報を掲載。</p>	A	オープンキャンパスの参加者が受験者につながっているため、多くの参加者が参加しやすい日程で次年度も実施する。また、希望者には附属セミナーハウスの見学を実施する。	
			<p>○連携協定校との活動 協定締結校の磯城野高校の生徒に対して体験授業を行うなどの取組を行い、本校の魅力を伝える。 【評価指標】 ・体験授業開催 2回/年</p>	<p>○連携協定校との活動 【実績】 ・体験授業開催 4回(施設草花コース及び動物活用コース:9月21日、食品科学コース:9月29日、食料生産コース:1月25日) ※対象は、施設園芸科2年生、農業科学科2年生、バイオ技術科2年生</p>	A	引き続き連携協定校の学生に体験授業を実施し、本校の魅力をPRする。	

重点目標:(2) 学生教育の充実

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の御意見
フードクリエイティブ学科	<p>&lt;現状&gt; 調理経験がない学生が多く、また年代の幅も広いなど、学生が多様化し、卒業後の進路は開業希望に加え、レストランやホテルへの就職が増加している。</p> <p>&lt;課題&gt; 飲食業界のプロになるには、食に関する幅広い知識と実践力が必要。このため実践実習やあらゆる分野の専門家によるカリキュラムを設定するとともに、高いプレゼンテーション能力の向上が必要である。</p>		<p>○実学を重視した授業の充実 【評価指標】( )内は総コマ数に占める割合 ・1年生調理関連実習 384コマ(56%) ・2年生調理関連実習 455コマ(76%)</p> <p>○専門家による授業の充実 【評価指標】( )内は総コマ数に占める割合 ・1年生外部講師授業時間 238コマ(35%) ・2年生外部講師授業時間 154コマ(26%)</p>	<p>○実学を重視した授業の充実 【実績】 ・1年生調理関連実習 384コマ(56%) ・2年生調理関連実習 455コマ(76%) 1年生はキャリアアート(ベーシック・プラクティス・クリエイション)、オーベルジュ実習、農業基礎実習などを実施。 2年生はキャリアアート(プラクティス・アドバンス)、プロジェクト実践実習、農業実習など 実学を重視した授業を計画どおり実施。</p> <p>○専門家による授業の充実 【実績】 ・1年生外部講師授業時間 238コマ(35%) ・2年生外部講師授業時間 154コマ(26%) 1年生はマネジメント基礎、フードビジネス・プランニング基礎、マーケティング入門、飲食サービス業界理解、食品学、栄養学、調理科学、外国語Ⅰなどを実施。 2年生はフードビジネス・プランニング演習、フード・レストランデザイン、フードパブリシティ、外国語Ⅱなど 専門家による授業を計画どおり実施。</p>	A	引き続き実施する。	
			<p>○発表演習を活用した学生の資質向上 実践実習発表(2年生)、意見発表(1年生)を実施することにより、プレゼンテーション能力の向上、各自の実践実習の進捗状況、進路に向けての現状をを学生、先生と共有を図る。 【評価指標】 ・実践実習発表会(2年生) 2回 ・意見発表会(1年生) 1回</p>	<p>○発表演習を活用した学生の資質向上 【実績】 ・実践実習中間発表会(2年生) 1回(9月28日) ・意見発表会(1年生) 1回(10月30日) ・実践実習成果発表会(2年生) 1回(12月19日)</p>	A	引き続き発表演習を実施し、学生のプレゼンテーション能力、資質向上を図る。	
			<p>○カリキュラムの見直し 令和4年度からレストランサービス技能検定の受験校となったこともあり、1年次に新たに「サービス演習」の科目を設置。 【評価指標】 ・レストランサービス技能検定受験者 8名</p>	<p>○カリキュラムの見直し 【実績】 ・レストランサービス技能検定筆記試験(8月18日)について、13名が受験し、6名合格。 このうち、実技試験(11月14日)に進んだのは4名で、4名合格。</p>	A	学年のほとんどが受験したが、最終的な合格者は少なかつたため、今後は、合格者を確実に輩出するため、計画的に試験対策を実施する。	
			<p>○BCCとの連携協定締結 スペイン美食の街、バスク州サンセバスチャン市にある料理専門大学バスクカリナリーセンター(BCC)と連携協定を締結し、交流事業を実施する。 【評価指標】 ・連携協定の締結 12月 ・交流事業の実施 1回/年</p>	<p>○BCCとの連携協定締結 【実績】 ・連携協定締結(12月13日) ・連携協定に基づく交流事業の実施に向けBCCへの表敬訪問(1月18日)</p>	C	令和5年度は、BCCより講師を招聘し、1・2年に向けた特別授業を実施予定。	
			アグリマネジメント学科	<p>&lt;現状&gt; 農業高校以外から入学する学生が多く(R4年度71%)、また非農家の学生も多い(同62%)など、学生が多様化し、就農の形態も自営就農に加え、農業法人への雇的就農が増加している。就職後にも生かせるプレゼンテーション能力を高める目的で意見・研究の発表会の機会を設けるなど、学生の能力向上を図っている。 また、農業を取り巻く環境も変化が大きく、近年ではGAP認証が求められ、またスマート農業の導入が生産現場でも進みつつある。農福連携の取り組みも増えている。</p> <p>&lt;課題&gt; 農業経営のプロになるには、生産から流通まで幅広い知識と実践力が必要である。1人1は場による実習や先進農家での長期実習など取り入れるとともに、経営やマーケティングなどあらゆる分野の専門家や経験豊かな農業技術者によるカリキュラムを設定。高いプレゼンテーション能力の向上やグローバルな視点での人材を育成する必要がある。</p>		<p>○実学を重視した授業の充実 実学を重視した授業を行うことにより学生の資質向上を図る。 【評価指標】( )内は総授業時間に占める割合 1年生農業実習 448コマ(65%) 2年生農業実習 480コマ(76%) 公開販売 2回以上/年</p> <p>○専門家による授業の充実 あらゆる分野の専門家や経験豊かな農業技術者によるカリキュラムを充実する。 【評価指標】( )内は総授業時間に占める割合 1年生外部講師授業時間 101コマ(15%) 2年生外部講師授業時間 157コマ(9%)</p>	
<p>○意見・研究発表による学生の資質向上 研究発表会(2年生)、意見発表会(1年生)を実施することにより、進路の進捗状況を学生、先生と共有することにより学生の資質向上につなげる。なお、発表の優秀者は、東海・近畿ブロック農業大学校学生研究・意見発表会への当校代表として選出する。 【評価指標】 実践実習発表会(2年生) 2回 意見発表会(1年生) 1回</p>	<p>○意見・研究発表による学生の資質向上 【実績】 ・実践実習中間発表会(2年生) 1回(11月14日) ・意見発表会(1年生) 1回(11月25日) ・実践実習成果発表会(2年生) 1回(2月3日) 当大学の学生が東海近畿大会プロジェクト発表大会で2年連続最優秀賞(1位)を受賞し、全国大会に東海・近畿地区代表として出場</p>	A				引き続き発表演習を実施し、学生のプレゼンテーション能力、資質向上を図る。	
<p>○海外農業に精通した人材育成 国際農業者交流協会と連携し、グローバルな視点を養う。 【評価指標】 ・海外研修参加者との交流会、講義等 3回</p>	<p>○海外農業に精通した人材育成 【実績】 ・海外研修参加者との交流会、講義等 3回(10月22日、10月28日、1月31日)</p>	A				引き続き実施する。	
<p>○時代に対応した新規技術の取組 【評価指標】 ・スマート農業に関する特別講義 1回</p>	<p>○時代に対応した新規技術の取組 【実績】 ・スマート農業に関する特別講義 1回(10月27日) ・実習活用のため、スマート農機であるアシストスーツ3種類導入</p>	A				引き続き実施する。アシストスーツについては、作業改善効果等の検証を実践実習成果発表会で実施した。	
<p>○農福連携の取組 ユニバーサルな社会に向けた農福連携への積極的対応を行う。 【評価指標】 ・学生現場視察 1回</p>	<p>○農福連携の取組 【実績】 ・学生現場(県内福祉法人)視察 1回(11月16日) ・県立特別支援学校学生受入 1回(3月7日)</p>	A				社会福祉法人の農業参入は、今後もさらに増加すると見込まれるため、次年度は農福連携を学ぶ特別講義を実施予定。	
<p>○GAP認証の取組 GAPの取組を継続させるため、現在認証を取得しているJGAPのトマト、イチゴについて認証を更新する。 【評価指標】 ・JGAP認証維持更新 2品目(トマト、イチゴ)</p>	<p>○GAP認証の取組 【実績】 ・JGAP認証維持更新 2品目(トマト、イチゴ)</p>	A				認証を行っていない作物の作業管理についてもGAPの管理手法を取り入れた学生指導を行う。	

重点目標:(3)開業・就農・就職支援の強化

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の御意見
フードクリエイティブ学科	<p>&lt;現状&gt; これまでフードクリエイティブ学科では59名の卒業生を輩出している(1~5期生)。 卒業時の進路は、開業が22%(準備中含む)、レストラン就職が37%、ホテル就職が8%、食関連企業就職が7%、親元就業が3%、その他が23%となっている。</p> <p>&lt;課題&gt; 引き続き学生が希望する進路につくよう指導する必要がある。2年生には、開業支援情報や求人情報等を提供するとともに、定期的に進路相談を行っているが、進路の決定が遅れる学生がいる。職員間の情報を共有し早くから就職活動等に取り組むよう学生に働きかけていく必要がある。</p>	就業支援活動	<p>○開業につながるカリキュラム等の充実 1年生から一部進路に応じた選択科目を受講し、2年生で進路に応じたコース分けを行い、開業を希望する学生は「マスターコース」を選択し、コースに応じた講義を受講。 【評価指標】 ・フードビジネス・プランニング実践Ⅰ(1年生) 8コマ ・マネジメント実践(2年生) 8コマ ・フードビジネス・プランニング実践Ⅱ(2年生) 8コマ</p>	<p>○開業につながるカリキュラム等の充実 1)フードビジネス・プランニング実践Ⅰ(1年生)・Ⅱ(2年生) 飲食店新規開業に生かせる経営管理手法を学ぶ。 2)マネジメント実践(2年生) 飲食店経営手法をベースに開業のための計画書について学ぶ。 【実績】 計画どおり実施。 ※開業選択者は、1年生1名、2年生1名。</p>	A	引き続き開業を支援する授業を実施する。	<p>・開業や就農、就職など進路に応じたカリキュラムを運営し、また、それぞれに応じたフォローアップも必要である。</p>
			<p>○就職につながるカリキュラム等の充実 1年生から一部進路に応じた選択科目を受講し、2年生で進路に応じたコース分けを行い、就職を希望する学生は「テクニカルコース」「ゼネラルコース」を選択し、コースに応じた講義を受講。 【評価指標】 ・キャリアプランニング(1年生) 8コマ ・キャリアマネジメント(2年生) 16コマ</p>	<p>○就職につながるカリキュラム等の充実 1)キャリアプランニング(1年生) 卒業後のキャリア形成に向け、基本となる自己理解と職業理解を深める。 2)キャリアマネジメント(2年生) ビジネスマナーをはじめ、社会人基礎力を学ぶ。 就職活動において、内定を獲得する対策を学ぶ。 【実績】 計画どおり実施。 ※就職選択者は、1年生11名、2年生14名。</p>	A	引き続き就職を支援する授業を実施する。開業選択者で一旦就職する学生には、就職対策指導も受けられるよう講師と調整する。	
			<p>○開業・就職支援活動の強化 開業・就職準備のコマを設け、担任との個別面談や資格取得に向けた取り組みを実施する。 【評価指標】 ・面談の実施 1年生:5回/人、2年生:3回/人 ・資格取得 食品衛生責任者 防火管理者 サービス接客実務検定 レストランサービス技能検定 ・県内事業者による校内企業ガイダンス開催 1回/年</p>	<p>○開業・就職支援活動の強化 開業・就職に関する特別指導および面談のほか、資格取得に向けた取り組み等を実施。 【実績】 ・面談の実施 1年生12人:3回/人、2年生15人:2回/人 (その他、必要な学生には個別面談を追加で実施) ・資格取得 食品衛生責任者(1年生12名取得) 防火管理者(1年生11名取得) サービス接客実務検定2級(1、2年生 9名合格) レストランサービス技能検定3級(2年生 4名合格) ・県内事業者による校内企業ガイダンス開催 1回(7月4日) ※2年生対象、5事業者参加</p>	C	<p>・次年度も引き続き、定期的な面談、必要に応じて追加の個別面談を実施し、進路の意向を確認しながら開業、就職活動を計画的に行えるよう指導する。 ・就職に向けた校内企業ガイダンスについて、学生の就職活動がよりスムーズにできるよう、次年度は早期に実施する。</p>	
			<p>○奨励制度を活用した就業等支援 奈良で輝くマイスター賞(就業計画を評価し表彰)及び世界へ羽ばたくベストマイスター賞(海外研修計画を評価し表彰)の奨励制度を活用して、開業や海外研修を予定している学生の就業等支援を図る。 【評価指標】 ・奈良で輝くマイスター賞 2名選定 ・世界へ羽ばたくベストマイスター賞 1名選定</p>	<p>○奨励制度を活用した就業支援 【実績】 ・奈良で輝くマイスター賞 応募者3名、1月30日に2名選定。 ・世界へ羽ばたくベストマイスター賞について、海外研修を希望する学生はなく、応募者なし。</p>	A	引き続き実施する。	
アグリマネジメント学科	<p>&lt;現状&gt; 平成28年度に現在のNAFICに移行し、86名が卒業した。卒業時の進路は、親元就農13%、自営就農29%、雇用就農26%、農業関連企業等就職15%、その他17%である。 兼業農家、非農家出身の学生が85%とほとんどを占めることから、就農の形態は農業法人等への自営就農(29%)、雇用就農(26%)が多い。また、農業関係団体や農機具メーカー等への就職も合わせた農業関連への就職率は15%である。</p> <p>&lt;課題&gt; さらなる就農率の向上を図る必要がある。また、2年生の学生には、就農支援情報や求人情報等を提供するとともに、定期的に個別面談等を行っているが、進路の決定が遅れる学生がいる。資格取得も含め、職員間で情報を共有し早くから就職活動等に取り組むよう学生に働きかけていく必要がある。</p>	就業支援活動	<p>○就農支援活動の強化 個別面談を実施するとともに、関係機関との連携や就農支援情報の提供を行い、スムーズな就農につなげる。 【評価指標】 ・就農希望者への個別面談の実施2回/人 ・就農基礎講座での卒業生への訪問 3回/年</p> <p>○就職支援活動の強化 農業関連就農・就職率の向上につなげるため、個別面談や農業法人の説明会等を実施し、早期から就農・就職意識を醸成するとともに、関係機関との連携や農業関連企業の求人情報の収集・紹介を行う。 【評価指標】 ・面談の実施 1年生:2回/人、2年生:2回/人 ・農業法人等との学生の交流会開催 1回/年 ・就業就職フェアへの参加促進 1回/年 ・就職基礎講座での就職希望事業者への企業等訪問 2回/年</p>	<p>○就農支援活動の強化 【実績】 ・就農希望者への個別面談 2回/人 ・就農基礎講座での卒業生への訪問 3回/年</p> <p>○就職支援活動の強化 1年生、2年生のうち就職を希望する学生に対して、農業法人等との交流会等を以下の通り開催し、進路を考える動機付けを行った。 【実績】 ・面談の実施 1年生19人:2回/人、2年生17人:2回/人 ・農業法人等と学生の交流会開催 1回(6月1日) ・就業就職フェアへの参加 1回(8月27日 グランフロント大阪) ・なら就農相談フェアへの参加 1回(1月29日 文化会館) ・就職基礎講座での就職希望事業者への企業等訪問 ・企業等訪問 2回(堀内果実園及び堀園芸:11月2日、山口農園及びSAKURAFARM:11月16日)</p>	A	引き続き学生の進路の意向を確認しながら、就農、就職活動に取り組む動機付けを行う。	
			<p>○就農、就職に生かせる資格取得の推進 【評価指標】 大型特殊免許、農業簿記検定等 11メニュー実施</p>	<p>○就農、就職に生かせる資格取得の推進し、以下を実施。 【実績】 ・食品衛生責任者(6月15日)※15名取得 ・大型特殊自動車講習(6月2日、13日、17日、19日、24日及び9月14日、18日、21日、28日、30日、1月13日、16日、20日、22日、27日)※9名合格 ・刈払機作業従事者安全衛生教育(7月27日)※6名取得 ・危険物取扱者資格取得講習(7月25、28日)※1名合格 ・フォークリフト運転技能講習(8月1日~5日)※7名合格 ・小型車両系建設機械特別教育(1月5日~6日)※7名取得 ・アーク溶接特別教育(8月22日~24日)※7名取得 ほか4メニュー</p>	A	引き続き実施する。	
			<p>○奨励制度を活用した就業等支援 奈良で輝くマイスター賞(就業計画を評価し表彰)及び世界へ羽ばたくベストマイスター賞(海外研修計画を評価し表彰)の奨励制度を活用して、就農や海外研修を予定している学生の就業等支援を図る。 【評価指標】 ・奈良で輝くマイスター賞 2名選定 ・世界へ羽ばたくベストマイスター賞 1名選定</p>	<p>○奨励制度を活用した就業支援 奈良で輝くマイスター賞は、3名が経営計画を作成した。プレゼン審査の結果、上位2名を選出した。 【実績】 ・奈良で輝くマイスター賞 2名選定 ・世界へ羽ばたくベストマイスター賞について、海外研修を希望する学生はなく、応募者なし。</p>	A	引き続き実施する。	

重点目標:(4)卒業生・県内従事者への支援

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の御意見
両学科共通	<p>&lt;現状&gt; 5期生までフードクリエイティブ学科59名アグリマネジメント学科86名の卒業生を輩出している。随時、卒業生からの相談に対し、農林(農業)振興事務所等と連携し、対応を行っている。</p> <p>&lt;課題&gt; 卒業生の現状や要望などの状況把握が必要になる。</p>	卒業生フォローアップ	<p>&lt;両学科共通&gt; ○両学科卒業生交流会 【評価指標】 ・交流会開催 1回/年</p> <p>&lt;フードクリエイティブ学科&gt; ○調理師免許取得支援 【評価指標】 ・調理免許資格試験事前対策講座 1回/年 ○開業した卒業生に対する支援 【評価指標】 ・料理メニュー作り支援 3回/年</p> <p>&lt;アグリマネジメント学科&gt; ○農林(農業)振興事務所等との連携 就農した卒業生に関する情報を共有し、農林(農業)振興事務所等と連携した支援を実施。 【評価指標】 ・農林(農業)振興事務所等訪問 4回/年</p>	<p>&lt;両学科共通&gt; ○両学科卒業生交流会 【実績】 ・交流会開催 1回(2月21日 附属セミナーハウスにて) ※参加者24名(フードクリエイティブ学科4名、アグリマネジメント学科20名)</p> <p>&lt;フードクリエイティブ学科&gt; ○調理師免許取得支援 【実績】 ・調理免許資格試験事前対策講座を7月上旬に予定していたが、受講希望者はなかった。 ○開業した卒業生に対する支援 【実績】 ・開業した卒業生に対する料理メニュー作り支援 3回</p> <p>&lt;アグリマネジメント学科&gt; ○農林(農業)振興事務所との連携 就農した卒業生に関する情報を共有し、農林(農業)振興事務所と連携した支援を実施。 【実績】 ・北部農業振興事務所訪問 1回(6月29日) ・中部農林振興事務所訪問 1回(7月6日) ・東部農林振興事務所訪問 1回(6月22日) ・南部農林振興事務所訪問 1回(7月13日)</p>	A  A  A	<p>&lt;両学科共通&gt; ・両学科卒業生交流会については、卒業生の交流を深め、近況を把握できる良い機会となったため、次年度以降も引き続き実施する。</p> <p>&lt;フードクリエイティブ学科&gt; ・受験希望者はいなかったが、調理師免許取得支援講座の体制は整ったので、引き続き希望者へ支援を実施。 ・卒業生の広報、料理メニュー作り支援について、継続して実施する。</p> <p>&lt;アグリマネジメント学科&gt; 引き続き就農した卒業生に関する情報を共有し、農林(農業)振興事務所と連携した支援を行う。</p>	
フードクリエイティブ学科	<p>&lt;現状&gt; 飲食サービス業の経営者や従事者、またその予定者を対象に、県産食材の知識向上を目的とした短期研修(フードアドバンス研修)を実施。また、本校の周知を図るとともに、県内飲食サービス従事者をはじめ県民の「食」に関する知識及び調理技術を高めるため、国内外で活躍する料理人等を招聘し、公開講座を開催している。</p> <p>&lt;課題&gt; より多くの受講者に参加してもらうよう、ニーズに応じたテーマ・講師の選定が必要。また、新型コロナウイルス感染防止の観点からオンラインを活用するなど工夫をして実施する必要がある。</p>	短期研修の運営	<p>○フードアドバンス研修の実施 【評価指標】 ・研修実施 1回/年(定員10人)</p>	<p>○フードアドバンス研修の実施。 【実績】 ・研修実施 1回 開催日:令和4年8月22日 講師:県家畜保健衛生所業務第二課長、大和肉鶏農協組合長、本校調理担当教授 テーマ:大和肉鶏について 修了者:11名(ホテル・レストラン従事者9名、開業予定者2名)</p>	A	<p>・NAFICの学びを多くの方々に知っていただき、飲食従事者等の資質向上を図るため、短期研修の機会を活用していく。</p>	
フードクリエイティブ学科	<p>&lt;現状&gt; 定年退職者等幅広い世代の就農希望者に、「アグリチャレンジ研修」や「農業機械安全使用研修」を実施し、また、当学科の授業を県民に公開する公開講座を開催している。</p> <p>&lt;課題&gt; 「アグリチャレンジ研修」は定員以上の申し込みがあり、定年退職者を中心に営農開始に向けた研修として効果がある。「農業機械安全研修」は、農業機械の安全使用上、継続して取り組まなければならない研修である。いずれの研修も研修生を確保しつつ継続して実施する必要がある。 昨年度の「公開講座」は、新型コロナ感染防止の観点からオンラインで実施した。今後も開催方法を工夫して実施する必要がある。</p>	公開講座の運営	<p>○公開講座の開催 【評価指標】 ・公開講座開催 2回/年(国内シェフ、国外シェフ各1回)</p>	<p>○公開講座の開催 【実績】 ・公開講座開催 1回 開催日:令和4年9月26日 講師:手島 純也氏(フランス料理店シェフ) テーマ:「日本人が探求するフランス料理の王道とは」 出席者数:会場参加者19名、オンライン参加12名 ・国外シェフによる公開講座については、BCCシェフを予定していたが、実施できなかった。</p>	C	<p>・今後もNAFICが料理人、飲食サービス事業者の学びの場となるよう公開講座の開催を継続する。 ・国外シェフについては、次年度は、BCC連携協定に基づき、BCC講師を招聘しを開催する。</p>	<p>・幅広い世代を対象とした(学校の見学含む)公開講座を開催することは効果的である。</p>
アグリマネジメント学科	<p>&lt;現状&gt; 定年退職者等幅広い世代の就農希望者に、「アグリチャレンジ研修」や「農業機械安全使用研修」を実施し、また、当学科の授業を県民に公開する公開講座を開催している。</p> <p>&lt;課題&gt; 「アグリチャレンジ研修」は定員以上の申し込みがあり、定年退職者を中心に営農開始に向けた研修として効果がある。「農業機械安全研修」は、農業機械の安全使用上、継続して取り組まなければならない研修である。いずれの研修も研修生を確保しつつ継続して実施する必要がある。 昨年度の「公開講座」は、新型コロナ感染防止の観点からオンラインで実施した。今後も開催方法を工夫して実施する必要がある。</p>	短期研修の運営	<p>○アグリチャレンジ研修の実施 社会人経験者や転職者の新規就農希望者に対し、短期の研修(座学及び実習)を実施し、多様な担い手の育成を図る。 【評価指標】 ・研修実施 26回/年</p>	<p>○アグリチャレンジ研修の実施 定員の1.6倍の応募があった。 【実績】 ・研修実施 26回(4月27日～11月30日の間) 研修生19名※全員研修修了</p>	A	<p>より次元の高い営農につながる研修体制が必要であるため、アグリチャレンジ研修を個々の就農につながるより実践的な内容の研修に見直す。</p>	
アグリマネジメント学科	<p>&lt;現状&gt; 定年退職者等幅広い世代の就農希望者に、「アグリチャレンジ研修」や「農業機械安全使用研修」を実施し、また、当学科の授業を県民に公開する公開講座を開催している。</p> <p>&lt;課題&gt; 「アグリチャレンジ研修」は定員以上の申し込みがあり、定年退職者を中心に営農開始に向けた研修として効果がある。「農業機械安全研修」は、農業機械の安全使用上、継続して取り組まなければならない研修である。いずれの研修も研修生を確保しつつ継続して実施する必要がある。 昨年度の「公開講座」は、新型コロナ感染防止の観点からオンラインで実施した。今後も開催方法を工夫して実施する必要がある。</p>	短期研修の運営	<p>○農業機械研修の実施 新規就農者や兼業農業者に対し、農業機械の安全使用(トラクター、耕耘機、刈払機)のための研修を実施する。 【評価指標】 ・研修の開催 6回/年</p>	<p>○農業機械研修の実施 始業点検やメンテナンスなど受講者の評価は高かったが、受講者は年々減少傾向。 【実績】 ・研修の開催 6回(5月17日、5月31日、6月14日午前・午後1回ずつ) ※参加者延べ17名</p>	A	<p>次年度は、新たに開催する上記研修の中で農業機械の安全性などを周知する。</p>	
アグリマネジメント学科	<p>&lt;現状&gt; 定年退職者等幅広い世代の就農希望者に、「アグリチャレンジ研修」や「農業機械安全使用研修」を実施し、また、当学科の授業を県民に公開する公開講座を開催している。</p> <p>&lt;課題&gt; 「アグリチャレンジ研修」は定員以上の申し込みがあり、定年退職者を中心に営農開始に向けた研修として効果がある。「農業機械安全研修」は、農業機械の安全使用上、継続して取り組まなければならない研修である。いずれの研修も研修生を確保しつつ継続して実施する必要がある。 昨年度の「公開講座」は、新型コロナ感染防止の観点からオンラインで実施した。今後も開催方法を工夫して実施する必要がある。</p>	公開講座の運営	<p>○公開講座の開催 スマート農業を推進するため、ICT農業に関する公開講座を開催する。 【評価指標】 ・公開講座開催 1回/年</p>	<p>○公開講座の開催 施設野菜の環境制御に関する特別講義を実施。 【実績】 ・公開講座の開催 1回 開催日:令和5年3月3日(金) テーマ:農業分野におけるICT活用の現状と未来について 講師:星 岳彦教授(近畿大学) 場所:NAFIC附属セミナーハウス(オンラインでも実施) 出席者数:会場参加者40名(学生含む)、オンライン参加26名</p>	A	<p>引き続き農業情勢に即した公開講座を実施する。</p>	